※令和４年度以降入学生用

学校番号	3032

令和５年度　創知

教科	(学)創知	科目	(学)創知Ⅰ	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	高校情報Ⅰ　Python（実教出版）						
副教材等	ベストフィット情報Ⅰ（実教出版）　創知テキスト（自主教材）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

創知という教科は天王寺高校独自のカリキュラムであり,通常の授業のように入試科目になったり定期考査を毎回行ったり，専用の問題集があるわけではない。教科の名前からもわかるように「創り出す」教科である。今まで，そしてこれから身につけていく様々な知識をもとに応用していくことが求められる。ここでいう応用とは決して模範解答があるような「応用問題」ではない。統合（application）でもなく総合（synthesis）していく教科である。こちらから「こうしなさい」という確立した学習方法はないし，あったとしても教える気はない。

２　学習の到達目標

・情報技術を活用して課題を明らかにし，問題解決するための知識・技能を習得する。
・得られたデータをもとに思考し,論文やプレゼンテーションにより他者に表現することができる。
・身の回りの問題を解決する過程を通じて，情報社会に主体的に参画する態度を身につける。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	日常生活や社会との関連を図りながら、探究活動や情報と情報技術について、基本的な概念や原理・原則を理解し、知識を身につけている。 探究活動や情報と情報技術に関わる実習を行うことで技能を習得し、それらの過程や結果を的確に記録、整理することができる。	探究活動や情報と情報技術から問題を見出し、探究する過程を通じて、事象を科学的に考察し、導き出した考えを適切に表現している。	探究活動や情報と情報技術に主体的に関わり、見通しを立てたり、振り返るなど、意欲的かつ科学的に探究しようとしている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元（題材）の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	データ分析	・クリティカルシンキング ・因果と相関 ・表計算ソフトの活用 ・統計分析	a:データ分析方法を習得するとともに、基本的な概念や原理を理解し、知識を身につけている。 b:データ分析に関連する問題を見出し、探究する過程を通じて、事象を科学的に考察し、導き出した考えを適切に表現している。 c: データ分析に関心を持ち、意欲的かつ科学的に探究しようとする。	定期考査	定期考査	振り返り
	情報社会・情報デザイン	・情報とメディア ・知的財産法 ・情報セキュリティー ・2進数の表現 ・デジタル表現 ・データの圧縮	a:情報やメディアに関する知識やデジタル表現を習得するとともに、基本的な概念や原理を理解し、知識を身につけている。 b:情報やメディア，デジタル表現に関連する問題を見出し、探究する過程を通じて、事象を科学的に考察し、導き出した考えを適切に表現している。 c: 情報やメディア，デジタル表現に関心を持ち、意欲的かつ科学的に探究しようとする。	定期考査	定期考査	振り返り
後期	研究実践・サイエンスイングリッシュ	・オープンデータの活用 ・アンケート調査法 ・仮説検証型研究実践 ・ポスタープレゼンテーション ・異文化理解	a:データの利活用法を習得するとともに、基本的な概念や原理を理解し、知識を身につけている。 b:データの利活用に関連する問題を見出し、探究する過程を通じて、事象を科学的に考察し、導き出した考えを適切に表現している。 c:データの利活用に関心を持ち、意欲的かつ科学的に探究しようとする。	定期考査	定期考査	プレゼンテーション レポート 振り返り

※令和４年度以降入学生用

	プログラミング・ネットワークの活用	・プログラミング ・アルゴリズム ・シミュレーション ・情報通信ネットワーク ・データ分析	a:プログラミングやアルゴリズムを習得するとともに、基本的な概念や原理を理解し、知識を身につけている。 b:プログラミングやアルゴリズムに関連する問題を見出し、探究する過程を通じて、事象を科学的に考察し、導き出した考えを適切に表現している。 c:プログラミングやアルゴリズムに関心を持ち、意欲的かつ科学的に探究しようとする。	定期考査	定期考査	振り返り レポート パフォーマンス課題

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度